

『十字架の陰陽師』設定用 賀茂在昌関連年譜

※太字が架空設定 年齢は数え年

◇勘解由小路（賀茂）在富 在昌父

延徳2年（1490） 2月 勘解由小路在富生

-永正5年（1508） 大内義興上洛

永正11年（1512） 23歳 任暦博士

結婚、室・清原宣賢（1475-1550・父吉田兼俱）娘・木根子（1495-1559）

永正9年（1515） 25歳 陰陽頭兼任

-永正15年（1518） 8月 1508より在京の大内義興、周防山口に帰国

大永4年（1524） 35歳 **娘日枝子生（1542 土御門有春継室）**

-万里小路秀房（1492-1563）娘・貞子15歳、大内義隆（1507-1551）18歳正室として山口下向

大永7年（1527） 38歳 **娘阿多子生（1545 山科言継継室）**

-享祿元年（1528） 12月 大内義興没、義隆22歳家督相続

天文5年（1536） 47歳 叙従二位

7月・天文法華の乱 **在富邸罹災 子女、日枝子12歳・阿多子9歳**

在富、大内義隆32歳（1507-1551）を頼り山口下向 **妻の弟・吉田兼右（1516-1573・21歳）、および広橋兼秀31歳（1506-1567）と娘・光子14歳も同行（広徳院喝食）**

天文7年（1538） 在富49歳 持明院基規47歳（1492-1551・前年周防下向）とともに帰洛

◇勘解由小路（賀茂）在昌

天文8年（1539） 1月 山口に生 **幼名宇治丸** 今八幡宮に預けられる

（慶長4年（1599）81歳にて没との記録だが、**61歳の誤り**という設定。以後年齢はそれに基づく）

母・正四位上大宮伊治（1496-1551）娘・佐井子/おさい **20歳（1520・正室上臈・のち大内義隆継室）**

大内義隆非嫡出女・広（1539-1604・のち在昌正室）、山口に生 **高嶺太神宮禰宜預かり**

母・広橋兼秀娘・光子**17歳（1523・1536 山口下向・広徳院理光）**

在富弟賀茂在康息・在種（1521-1551）**19歳**・在富養子・従五位下

（史書には21歳没の記録があるが、**31歳没の誤り**との説を採る）

-天文11年（1542） 1月 大内義隆、出雲の尼子氏へ遠征、翌年2月大敗帰還

-天文14年（1545） 大内義隆39歳室・おさい（大宮佐井子26歳）、嫡子亀童丸（義尊・-1551）出産

正室万里小路貞子、離縁して帰洛 旧邸・東の御殿におさい住む

天文15年（1546） **8歳 外祖父・左大史算博士大宮伊治51歳**山口下向、**宇治丸・広の養父となる**

養父に算学、今八幡宮および高嶺神明宮にて吉田神道を学ぶ

-天文18年（1549） 6月 細川晴元・將軍足利義藤（後義輝）、三好長慶の謀反により近江坂本に敗走

天文19年（1550） **12歳** 11月 フランシスコ・ザビエル（1506-1552）一行山口到来、大内義隆に引見

天文20年（1551） **13歳** 在富62歳 叙正二位

-1月 ザビエル一行上洛、山口を経て3月平戸帰還

3月7,14日 伊勢貞孝邸に会見中の三好長慶に対し、將軍方進士賢光による暗殺未遂事件

3月14日 在種**31歳**、養父在富により横死 **上記の事件に携わったことが原因**

-3月15日 將軍方の三好政勝と香西元成が三好長慶本拠地丹波宇津に侵入

-4月 ザビエル一行山口再訪、許可を得て布教 ロレンソ了齋（1526-1592）入信

-8月 ザビエル豊後府内に行き、大名大友宗麟（義鎮）より布教許可を得る

同月 28 日～9 月 1 日 陶隆房・内藤興盛の乱、大内義隆・大宮伊治ら戦死
 コスメ・デ・トーレス司祭 (1506-1552) の助けにより豊後府内に逃れる。広受洗・洗礼名カタリナ
 広共々堺を経て上洛、嗣子認知を得られず、山科言継 43 歳 (1507-1579) 邸に寓居
 天文 22 年 (1553) 9 月 在富室木根子 59 歳、山科言継 45 歳三男鶴松丸 7 歳を相続に要請
 母・在富娘阿多子 (1527-・1545 19 歳 言継側室) 後、橘朝臣氏薄以緒養子・薄諸光 (1547-1585)
 天文 23 年 (1554) 16 歳 嗣子と認められ元服 在昌と号
 結婚、室・大内義隆遺児・広 (カタリナ) 16 歳
 弘治元年 (1555) 17 歳 長男宇佐丸 (メルシヨル) 生
 -弘治 3 年 (1557) 3 月 大内義長毛利軍侵攻により敗死、山口大内氏滅亡
 永禄元年 (1558) 20 歳 長女すえ (陶子) 生
 -11 月・將軍足利義輝帰洛
 永禄 2 年 (1559) 21 歳・在富 69 歳
 11 月-12 月 ガスパル・ヴィレラ司祭 (1525-1572) 一行上洛、四条坊門室町西入に仮南蛮寺を設ける
 12/8 (ユリウス暦 12/24) 在昌受洗 洗礼名マノエル (エマヌエル)
 永禄 4 年 (1561) 23 歳 次女かな (可奈子) 生 (後、土御門久脩室)
 -永禄 6 年 (1563) ロレンソ了齋イエズス会に正式入会、修道助祭 (イルマン) となる
 永禄 7 年 (1564) 26 歳・在富 74 歳 ロレンソ了齋に同行し豊後に向け出発
 次女可奈子 4 歳は山科言継 (58 歳) 邸預かり
 12 月 伊予堀江でルイス・フロイス (1532-1597) らと出会い、妻を施療される
 次男戎丸 (在信) 生 洗礼名フィデル (フィデリス)
 永禄 8 年 (1565) 27 歳 1 月 長男、数え 11 歳にして受洗、洗礼名メルシヨル (メルキオル)
 -6 月 足利義輝二条武衛陣にて戦死 ヴィレラ一行京追放、堺に逃れる
 8 月 父在富 76 歳没 (勘解由小路正二位賀茂朝臣在富卿)
 土御門有春 (1501-1569) 四男の福寿丸 (1553-1575・13 歳)、在高として勘解由小路家相続
 母・在富娘日枝子 (1524-・1542 19 歳 有春継室)
 -永禄 9 年 (1566) ルイス・デ・アルメイダ (1525-1583) 天草志岐に教会を建てる
 永禄 11 年 (1568) 30 歳 豊後の府内教会に滞在 三女鞠 (マリア・1568-1635) 生
 -元亀元年 (1570) 6 月 フランシスコ・カブラル (1529-1609) 天草に到着 適応主義否定
 9 月 コスメ・デ・トーレス天草志岐で帰天
 -元亀 4 年 (1573) 土御門有脩 (1527-1577) 息・土御門久脩 (1560-1625・14 歳) 叙従五位下陰陽頭
 7 月 足利義昭追放、備後に逃れる 天正に改元
 天正 3 年 (1575) 在高没 (23 歳)
 久脩 16 歳、在綱として勘解由小路家相続、室・在昌次女可奈子 (1561-) 従五位上左馬助
 -天正 4 年 (1576) オルガンティーノ司祭 (1533-1609) 上洛、四条坊門室町西入に南蛮寺建立
 天正 5 年 (1577) 38 歳 1 月 土御門有脩没 3 月 久脩 18 歳・土御門復姓
 7 月・在昌帰洛、従五位下陰陽頭叙任 (長男メルシヨル 23 歳と三女鞠 10 歳は豊後府内に残る)
 10 月 叙従五位上
 -11 月 織田信長任右大臣
 -天正 7 年 (1579) 山科言継没
 天正 8 年 (1580) 長男メルシヨル 26 歳、イルマン (修道助祭) となる
 -スペイン・ポルトガル合邦
 -天正 9 年 (1581) ガスパル・コエリヨ司祭 (1530-1590) 日本準管区長に就任
 天正 10 年 (1582) 43 歳 6 月 本能寺の変 幸徳井友忠 (1531-1601) を頼り奈良に下向

-9月19日(1582年10月15日)・グレゴリオ暦施行
 -天正11年(1583) ペドロ・ゴメス司祭(1535-1600) グレゴリオ暦を携えて来日、豊後府内にて講義
 -天正13年(1585) メルシヨル31歳、イエズス会退会、3-4ヵ月後天草で暗殺
三女鞠17歳、修道女となる
 -3月 秀吉関白宣下、賜豊臣姓
 -天正14年(1586) 7月 秀吉九州征伐(翌年4月まで) 12月 島津方により豊後府内・丹生島大破
 天正15年(1587) 6月 伴天連追放令、京都南蛮寺・長崎公館棄却 9月 秀吉聚楽第建立
 ペドロ・ゴメス豊後より天草に逃れ開講 **三女鞠19歳師事**
 -9月 聚楽第落成
 天正18年(1590) **52歳** 4月 方広寺大仏殿地鎮祭執行 **叙正四位下**
 6月 天正遣欧使節団長崎帰国、11月-翌2月上洛 **三女鞠23歳、同行し上洛**
 -天正19年(1591) 山科言経名誉回復
 -天正20年(1592) 4月 文禄の役 12月改元
 -文禄4年(1595) 7月 豊臣秀次廃嫡切腹 土御門久脩配流
 -慶長2年(1597) 2月 長崎切支丹迫害 7月 慶長の役
 -慶長3年(1598) 9月 秀吉没
 慶長4年(1599) 3月 **病に伏す**。山科言経(言継獅子)の上奏により**叙従三位**
 8月 **61歳**にて没
 真言宗智山派六波羅蜜寺にて**茶毘** **墓所**: 堺の同門・密乗山念仏寺(開口神社別当寺)
常在院萬円天昌居士

◇勘解由小路(賀茂)在信 賀茂在昌次男・嗣子

永禄7年12月朔日(1565.1.3) 伊予堀江にて生 **幼名戎丸、洗礼名フィデル(フィデリス)**
 豊後府内に育つ
 天正5年(1577) 13歳 **上洛、元服**
 天正10年(1582) 18歳 本能寺の変 **奈良に下向**
 柳生石舟斎宗厳(1527-1606) **娘勝子(1565-・幸徳井友忠姉姪・母幸徳井友栄 1487-1558 娘)**と通じ、
翌年長男吉備丸(1583-1645・後幸徳井友景)生
勝子・柳生家臣安井永順正妻となり、吉備丸は幸徳井友忠(1541-1601)52歳養育
 -天正13年(1585) 秀吉関白宣下、翌年豊臣姓下賜
 天正16年(1588) 24歳 **堺在住の修験行者・小倉浄因の姪・檜乃(1571-)**と結婚
 天正18年(1590) 26歳 方広寺大仏殿地鎮祭に際して父と共に**出仕、叙従五位下**
 天正19年(1591) 27歳 3月 フロイス、ヴァリニャーノ、伊東マンショ(1569-1612)らと共に**天草下向、ペドロ・ゴメスに師事**
 天正20年(1592) 28歳 1月 **嗣子貴船丸(在季)生** 4月・文禄の役 12月改元
 -文禄2年(1593) ペドロ・ゴメス『天球論』著
 文禄4年(1595) 31歳 9月 **帰洛 正五位下大蔵大輔暦博士叙任**
 文禄5年(1596) 閏7月 正五位下行大蔵大輔博士賀茂在昌として書簡
 -閏7月 伊予-豊後-伏見地震 10月改元
 慶長3年(1598) 34歳 3月 史書に在信初出
 -9月・秀吉没 **ゴメス長崎で開講**
 慶長4年(1599) 35歳 父在昌没 **母・広、堺に下る**

慶長 5 年 (1600) 36 歳 3 月 叙正五位上

-幸徳井友豊 (1566-1602) 叙従四位下行陰陽頭

-9 月 関ヶ原の戦い 11 月 土御門久脩一時上洛、翌年帰洛

慶長 9 年 (1604) 40 歳 母・広 66 歳堺にて没 **堺に下る**

-洛中天主堂再建

慶長 10 年 (1605) 41 歳 堺在住 (「勘解由小路修理大夫在信」)

慶長 15 年 (1610) 45 歳 方広寺大仏殿再興地鎮祭齋行 (賀茂在昌と号) (ここまで史書にあり)

-慶長 16 年 (1611) 幸徳井友景 19 歳・叙従五位下

慶長 18 年 (1613) 46 歳 イギリス商船クローブ号平戸来航 ジョン・セーリス提督、8 月堺に立寄

妹鞠 (43 歳) これに同乗、ロンドン到着、のちにアイルランドで生涯を全う

慶長 19 年 (1614) 50 歳 大阪冬の陣、切支丹禁止令 (翌年夏の陣にて堺全焼)

妻子を伴い因幡に落ち、若桜宿に移住 松神大明神 (若桜神社) 神主、通称和賀佐茂信

-元和 4 年 (1618) 幸徳井友景 35 歳・任陰陽頭

寛永 15 年 (1638) **75 歳にて没**

同年島原の乱終結